

台風 17・18 号に関する第 5 回災害対策本部会議を開催しました(2015/9/11)

テーマ：緊急調査

9月13日(日)9:00から、台風17号・18号に関する第5回災害対策本部会議を開催しました。第5回目の会議では、各チームの情報共有や今後の対応方針について議論しましたが、宮城県大崎市・大和町の氾濫箇所を対象にして現地調査を行ったチームの報告が主でした。現地調査は、当研究所の呉修一助教、保田真里助手(災害リスク研究部門)、林晃大助手(寄附研究部門)ほかが実施し、呉助教から報告がありました。呉助教らは宮城県内の吉田川、渋井川を調査しました。呉助教からは、河川の合流地点よりも上流部で越水するという現象は、ここ数年の東北における氾濫の傾向と似ていること、破堤のメカニズムに関する仮説が報告されました。これらの内容については、下記の特設ページに逐次更新していく予定です。

平成27年 台風17号・18号に伴う洪水・土砂災害(2015年9月)

http://irides.tohoku.ac.jp/topics_disaster/ibaraki-tochigi-flood.html



報告の様子(呉修一助教)

文責：佐藤翔輔(情報管理・社会連携部門)、鈴木通江(広報室)